准教授　**北村　陽子**　KITAMURA,　Youko

1.　略歴

1995 年 3 月　名古屋大学文学部西洋史学専攻 卒業
1995 年 4 月　名古屋大学大学院文学研究科史学地理学専攻西洋史学専門博士前期課程 入学
1997 年 3 月　同 修了
1997 年 4 月　同 博士後期課程 進学
2004 年 9 月　同 単位修得の上 満期退学
2006 年 7 月　博士（歴史学）取得
2010 年 4 月　愛知工業大学基礎教育センター 特任准教授
2013 年 4 月　同 准教授
2018 年 4 月　名古屋大学大学院人文学研究科 准教授（～2024 年 3 月）
2024 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2.　主な研究活動

(1)　学位論文

『第二帝政期ドイツにおける女性の社会活動と家族扶助――フランクフルト・アム・マインの事例』、名古屋大学大学院文学研究科、2006.7、全 202 頁

(2)　単著

『戦争障害者の社会史――20 世紀ドイツの経験と福祉国家』、（名古屋大学出版会、2021 年 2 月）全 362 頁、（2021 年サントリー学芸賞思想・歴史部門受賞）

(3)　共著

川越修・辻英史編『社会国家を生きる――20 世紀ドイツにおける国家・共同性・個人』（法政大学出版局、2008.12）、（担当：「社会のなかの「戦争障害者」――第一次世界大戦の傷跡」139-170 頁）

姫岡とし子・川越修編『ドイツ近現代ジェンダー史入門』（青木書店、2009.2）、（担当：「第一次世界大戦と戦争障害者の男性性」290-297 頁）

若尾祐司・和田光弘編『歴史の場――史跡・記念碑・記憶』（ミネルヴァ書房、2010.5）、（担当：「世界大戦の記憶――フランクフルト・アム・マインの戦争記念碑」307-324 頁）

若尾祐司・本田宏編『反核から脱原発へ――ドイツとヨーロッパ諸国の選択』（昭和堂、2012.4）、（担当：「フランクフルト・アム・マインにおける反原発市民運動」185-196 頁）

橋本伸也・沢山美果子編『保護と遺棄の子ども史』（昭和堂、2014.6）、（担当：「両次世界大戦期ドイツの戦争障害者をめぐる保護と教育」269-275 頁）

辻英史・川越修編『歴史のなかの社会国家――20 世紀ドイツの経験』（山川出版社、2016.1）、（担当：「「傷ついた父親」は家族の扶養者たるか――第二次世界大戦後西ドイツの戦争障害者援護」83-107 頁）

三時眞貴子・岩下誠・江口布由子・河合隆平・北村陽子編『教育支援と排除の比較社会史――「生存」をめぐる家族・労働・福祉』（昭和堂、2016.10）、（担当：「障害者の就労と「民族共同体」への道――世界大戦期ドイツにおける戦争障害者への職業教育」260-285 頁）

若尾祐司・木戸衛一編『核開発時代の遺産――未来責任を問う』（昭和堂、2017.10）、（担当：「西ドイツ「原子力村」の核スキャンダル――核燃料製造企業の立地都市ハーナウのイメージ」132-163 頁）

斎藤公輔編『第一次世界大戦の諸相――個と全体の視点から』（日本独文学会、2019.10）、（担当：「第一次世界大戦期ドイツにおける戦争犠牲者援護――寡婦への支援を中心に」45-57 頁、URL: https://www.jgg.jp/pluginfile.php/133/mod_book/chapter/30/SrJGG136neu.pdf.pdf）

若尾祐司・木戸衛一編『核と放射線の現代史――開発・被ばく・抵抗』（昭和堂、2021.3）、（担当：「世界大戦期ドイツにおける戦場医学と放射線防護の発展」2-21 頁）

社会事業史学会創立 50 周年記念論文集刊行委員会編『戦後社会福祉の歴史研究と方法――継承・展開・創造 第 1 巻〈思想・海外〉』（近現代資料刊行会、2022.10）、（担当：「ドイツの社会政策史研究について」503-557 頁）

(4)　論文（全て単著）

「第二帝政期フランクフルトにおける住宅政策と家族扶助」、『史林』82 巻 4 号、1999.7、73-104 頁、査読有

「第一次世界大戦期ドイツにおける戦時扶助体制と女性動員――フランクフルト・アム・マインの事例」、『西洋史学』221 号、2006.6、23-43 頁、査読有

「戦間期ドイツにおける戦争障害者の社会的位置」、『社会科学』40 巻 1 号、2010.5、55-75 頁、査読有

「近代ドイツにおける戦時女性動員と社会活動の形成」、『社会科学』41 巻 1 号、2011.5、149-173 頁、査読有

「第二帝政期ドイツにおける「母性保険」構想の発展と限界」、『社会科学』42 巻 1 号、2012.5、223-245 頁、査読有

「20 世紀前半ドイツにおける戦争障害者――二つの世界大戦と生活支援の変遷」、『社会事業史研究』48 号、2015.9、63-78 頁

「ドイツにおける世界大戦と福祉――盲導犬の発展と歴史」、『軍事史学』53 巻 4 号、2018.3、28-46 頁、査読有

「第二次世界大戦下の戦争犠牲者問題――フランクフルト・アム・マインを事例に」、『歴史と経済』239 号、2018.4、2-11 頁、査読有

「ヨーロッパの戦争博物館における世界大戦の展示」、『同時代史研究』13 号、2020.9、83-90 頁、査読有

「世界大戦期ドイツにおける戦争障害者支援」、『歴史評論』854 号、2021.6、62-75 頁

「戦争障害者の社会復帰と男性性――第一次世界大戦期のドイツを例に」、『ジェンダー研究』25 号、2023.2、83-98 頁、査読有

(5) 小論・翻訳・書評・その他

〔翻訳〕デイヴィッド・トレイル著（周藤芳幸・澤田典子・北村陽子訳）『シュリーマン――黄金と偽りのトロイ』、（青木書店、1999.2）、全 529 頁、（担当：2-5、11 章）

〔報告要旨〕「ドイツ社会民主主義と家族政策――都市フランクフルト・アム・マインにおける家族扶助の成立 1914-1929」、『西洋史学』208 号、2002、81 頁

〔報告要旨〕「自治体福祉から「社会的都市」へ――第一次世界大戦期都市フランクフルト・アム・マインにおける家族支援制度の発展」、『パブリック・ヒストリー』2 号、2005.2、159-160 頁

〔書評〕「北村昌史著『ドイツ住宅改革運動――19 世紀の都市化と市民社会』」、『ドイツ研究』42 号、2008.5、196-199 頁

〔科研報告書〕『ヨーロッパ「歴史の場」に関する研究（平成 19 年度～平成 20 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果報告書）』、2009.3、（担当：「近代ドイツにおける戦没者の平等性と個別性――戦争記念碑をめぐる試論」139-152 頁）

〔学会報告記〕「第二次世界大戦期ドイツにおける戦争障害者の職業教育について」、（科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）、『「子ども」の保護・養育と遺棄をめぐる学際的比較史研究』、ディスカッション・ペーパー Web 版・2 号、2011.5、35-39 頁、URL: http://hdl.handle.net/10236/7193）

〔科研報告書〕『教育「支援」とその「排除性」に関する比較史研究（学術研究助成基金助成金基盤研究（C））最終報告書』、2014.3、（担当：「第二次世界大戦期ドイツにおける戦争障害者への職業教育」139-157 頁、URL: https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00035438）

〔インタビュー〕"Jedes Jahr um die halbe Welt", *Hundert. Das Jubiläumsmagazin der Deutschen Nationalbibliothek #4,* Sept. 2012, S. 12-13.

〔学界展望〕「現代ドイツ・スイス・ネーデルラント」、『史学雑誌』122 編 5 号、2013.5、368-375 頁

〔小論〕「戦没兵士の追悼――戦争記念碑は悲しみを昇華するものとしても機能するようになった」、『図書新聞』3156 号、2014.4.26、10 頁

〔コラム〕山室信一・岡田暁生・小関隆・藤原辰史編『現代の起点 第一次世界大戦 2 総力戦』、（岩波書店、2014.5）、（担当：「寡婦の戦争」264-265 頁）

〔書評会報告記〕「永山のどか『ドイツ住宅問題の社会経済史的研究――福祉国家と非営利住宅建設』」、『西洋近現代史研究会会報』28 号、2014.7、24-27 頁

〔学会報告記〕「ジェンダー化された戦争――ドイツの事例」、『女性とジェンダーの歴史』2 号、2014.11、70-71 頁

〔小論〕藤原辰史編『第一次世界大戦を考える』、（共和国、2016.3）、（担当：「戦争記念碑」135-138 頁）

〔研究展望〕"Atomkraft: Energie für eine segensreiche Zukunft?", in: *Archivnachrichten aus Hessen*, 16-1, Mai 2016, S. 63-66, 査読有

〔書評〕「レギーナ・ミュールホイザー著（姫岡とし子監訳）『戦場の性――独ソ戦下のドイツ兵と女性たち』」、『女性史学』26 号、2016.7、114-117 頁、査読有

〔読書案内〕「近代ドイツにおける戦争と女性」、『歴史と地理 世界史の研究』248 号、2016.8、43-46 頁

〔大会報告批判〕「2017 年度歴史学研究会大会 現代史部会」、『歴史学研究』965 号、2017.12、49-50 頁

〔書評〕「高林陽展著『精神医療、脱施設化の起源――英国の精神科医と専門職としての発展 1890-1930』」、『西洋史学』264 号、2017.12、132-134 頁、査読有

〔報告要旨〕「第一次世界大戦後ドイツにおける戦争犠牲者援護――盲導犬の誕生」、『パブリック・ヒストリー』16 号、2019.2、95-96 頁

〔書評〕「石井香江著『電話交換手はなぜ「女の仕事」になったのか――技術とジェンダーの日独比較社会史』」、『女性とジェンダーの歴史』6 号、2019.3、98-100 頁、査読有

〔翻訳〕タラ・ザーラ著（三時眞貴子・北村陽子監訳）『失われた子どもたち――第二次世界大戦後のヨーロッパの家族再建』、（みすず書房、2019.12）、全 477 頁（担当：4-5 章）

〔報告要旨〕「世界大戦期ドイツにおける戦場医学と X 線」、『化学史研究』47 巻 2 号、2020.6、77-78 頁

〔報告要旨〕「世界大戦期ドイツにおける戦争障害者支援」、『歴史評論』847 号、2020.11、64-66 頁

〔Web 記事・自著解説〕「北村陽子著『戦争障害者の社会史――20 世紀ドイツの経験と福祉国家』」、『All Reviews』、2021.3、（URL: https://allreviews.jp/review/5433）

〔書評〕「松田英里著『近代日本の戦傷病者と戦争体験』」、『人民の歴史学』228 号、2021.6、26-30 頁、査読有

〔Web 記事・受賞のことば〕「パラスポーツも盲導犬も、戦争に苦しめられた人びとへの国の無償サービスから発展した」、『Web アステイオン』、2021.12、（URL: https://www.newsweekjapan.jp/asteion/2021/12/post-47.php）

〔巻頭言〕「かがり火 『戦争障害者の社会史』から考える包摂と排除」、『月刊社会教育』793 号、2022.6、1 頁

〔書評〕「水野博子著『戦後オーストリアにおける犠牲者ナショナリズム――戦争とナチズムの記憶をめぐって』」、『西洋史学』273 号、2022.6、77-79 頁、査読有

〔小論〕「戦争障害者から見る社会福祉の源流」、『學士會会報』955 号、2022.7、47-51 頁

〔項目執筆〕日本医史学会編『医学史事典』、（丸善出版、2022.7）、（担当：「戦争障害者と医療」754-755 頁）

〔紹介〕「感染症をめぐる政治と社会の分断・緊張」、『歴史の理論と教育』157 号、2022.10、10-12 頁

〔Web 記事・コラム〕「西ドイツ「原子力村」の興亡」、『No Nukes まちの便り まちの声』30 号、2023.1、5-6 頁、（URL: http://kyoto-hikaku.la.coocan.jp/5%206p%20kitamura.pdf）

〔書評〕「桑原ヒサ子著『ナチス機関誌「女性展望」を読む――女性表象、日常生活、戦時動員』」、『女性とジェンダーの歴史』10 号、2023.2、64-66 頁、査読有

〔項目執筆〕山口みどり・弓削尚子・後藤絵美・長志珠絵・石川照子編『論点・ジェンダー史学』、（ミネルヴァ書房、2023.6）、（担当：「戦争・負傷兵と男性ジェンダー」134-135 頁）

(6) 学会・研究会報告等

〔学会報告〕「ドイツ社会民主主義と家族政策――都市フランクフルトにおける家族扶助の成立 1914-1929」、第 52 回日本西洋史学会大会（於東京外国語大学）、2002.5.19

〔研究会報告〕「自治体「社会都市」へ――第一次大戦期都市フランクフルト・アム・マインにおける家族支援制度の発展」、第 9 回ワークショップ西洋史・大阪（於大阪大学）、2004.6.19

〔パネルディスカッション〕「第一次世界大戦期ドイツにおける都市社会事業の展開」、社会経済史学会第 77 回全国大会（於広島大学）、パネルディスカッション①「ドイツ「社会都市」論の可能性――「社会国家」との関係性とその比較史的射程」、2008.9.28

〔シンポジウム報告〕「第二次世界大戦期ドイツにおける戦争障害者援護について」、比較教育社会史研究会 2010 年度秋季例会（於関西学院大学）、小シンポジウム「戦時体制下の障害児者の教育」、2010.10.31

〔研究会報告〕“Kriegsversehrtenversorgung in der Bundesrepublik Deutschland in den 1950er Jahren”, Werkstatt “Wohlfahrt” Kolloquium in Kyoto（於同志社大学）、2011.3.12

〔シンポジウム報告〕「1950 年代西ドイツにおける戦争障害者援護」、第 61 回日本西洋史学会大会（於日本大学）、小シンポジウム III「家族と社会国家――20 世紀ドイツにおける包摂のダイナミズム」、2011.5.15

〔展覧会展示〕「越境するヒロシマ――ロベルト・ユンクと原爆の記憶」（於広島原爆資料館、2013.2.15～3.28；於立命館大学国際平和ミュージアム、2014.5.13～6.1；於東京大学駒場博物館、2014.10.18～12.7）

〔シンポジウム報告〕「フランクフルトからみたヒロシマ」、第 24 回西日本ドイツ現代史学会（於広島市立大学）、シンポジウム「核の時代におけるヒロシマの記憶」、2014.3.28

〔シンポジウム報告〕「戦争犠牲者の支援と女性の役割――ドイツの事例」、イギリス女性史研究会第 22 回研究会（於甲南大学）、シンポジウム「第一次世界大戦と女性――生と死をめぐって」、2014.7.13

〔シンポジウム報告〕「第一次世界大戦と女性――兵士遺家族支援を題材に」、ドイツ現代史学会第 37 回大会（於駒澤大学）、シンポジウム「経験としての第一次世界大戦――日本におけるドイツ・ヨーロッパ近現代史研究者の視点から」、2014.9.20

〔シンポジウム報告〕「20 世紀前半ドイツにおける戦争障害者――二つの世界大戦と生活支援の変遷」、社会事業史学会第 43 回大会（於愛知県立大学）、シンポジウム「戦争・社会福祉・人権――「排除の歴史」を問い直す」、2015.5.10

〔共通論題報告〕「第二次世界大戦下の戦争犠牲者問題――フランクフルト・アム・マインを事例に」、政治経済学・経済史学会 2017 年度秋季大会（於大阪商業大学）、共通論題「「戦時社会問題」の展開と帰結――食料危機・民族支配・社会関係の再編を中心に」、2017.10.15

〔研究会報告〕「第二次世界大戦後ドイツにおける戦争犠牲者援護」、空襲被災者運動研究会 11 月公開研究会（於東洋大学）、「民間人戦争被害者援護問題の日独比較」、2017.11.4

〔研究会報告〕「世界大戦期ドイツにおける戦争犠牲者援護」、近現代史研究会第 118 回研究会（於立正大学）、2018.3.23

〔研究会報告〕「第一次世界大戦後ドイツにおける戦争犠牲者援護――盲導犬の誕生」、第 23 回ワークショップ西洋史・大阪（於大阪大学）、2018.6.16

〔セミナー報告〕「ドイツにおける盲導犬発展の歴史――第一次世界大戦の戦争犠牲者支援の文脈から」、早稲田大学高等研究所〈新しい世界史像の可能性〉セミナーシリーズ（於早稲田大学）、2018.7.21

〔シンポジウム報告〕「第一次世界大戦期ドイツにおける戦争犠牲者援護――寡婦への支援を中心に」、日本独文学会秋季研究発表会（於名古屋大学）、シンポジウム I「第一次世界大戦の諸相――個と全体の視点から」、2018.9.29

〔合評会報告〕「望戸愛果著『「戦争体験」とジェンダー――アメリカ在郷軍人会の第一次世界大戦戦場巡礼を読み解く』」、西洋近現代史研究会 10 月例会（於専修大学）、2018.10.13

〔シンポジウム報告〕「寡婦たちの戦争――第一次世界大戦期ドイツにおける戦争犠牲者援護」、日本国際政治学会 2018 年度研究大会（於大宮ソニックシティ）、分科会 E-7、ジェンダーII、シンポジウム「戦後を生きる人々とジェンダー」、2018.11.4

〔合評会報告〕「中村江里著『戦争とトラウマ――不可視化された日本兵の戦争神経症』」、歴史学研究会現代史部会 1 月例会（於明治学院大学）、2019.1.26

〔セミナー報告〕“Kriegsversehrtenversorgung in Deutschland in der ersten Hälfte des 20. Jahrhunderts”, Seminar an der Universität Regensburg（於レーゲンスブルク大学）、2019.6.18

〔シンポジウム報告〕「第一次世界大戦期ウィーンにおける日常生活」、シンポジウム「クリムトとその時代」（於豊田市美術館）、2019.9.22

〔研究会報告〕「第一次世界大戦と家族の変容――ドイツにおける戦争犠牲者支援の視点から」、第 7 回関西ジェンダー史カフェ（於立命館大学）、2020.1.12

〔シンポジウム報告〕「世界大戦期ドイツにおける戦場医学と X 線」、2020 年度化学史学会年会（オンライン）、シンポジウム「やっかいな随伴者――世界史における放射線、放射性物質の扱われ方」、2020.7.4

〔シンポジウム報告〕「世界大戦期ドイツにおける戦争障害者支援」、歴史科学協議会第 54 回大会（オンライン）、シンポジウム「国家・社会と打ち捨てられる個人」、2020.11.29

〔研究会報告〕「北村陽子著『戦争障害者の社会史――20 世紀ドイツの経験と福祉国家』」、戦争と歴史を考える――戦争の消費と戦争認識の変化研究会（オンライン）、2021.7.8

〔合評会報告〕「北村陽子著『戦争障害者の社会史――20 世紀ドイツの経験と福祉国家』／馬場わかな著『近代家族の形成とドイツ社会国家』」、福祉社会研究フォーラム（オンライン）、2021.9.4

〔書評リプライ〕「北村陽子著『戦争障害者の社会史――20 世紀ドイツの経験と福祉国家』」、ドイツ現代史研究会（オンライン）、2021.10.24

〔シンポジウム報告〕「戦時型社会政策から社会国家へ――西ドイツにおける障害者政策の変遷」、現代史研究会 10 月例会（オンライン）、シンポジウム「社会国家の「破断界」？――戦後ドイツ社会の労働と家族」、2021.10.30

〔研究会報告〕「戦争障害者の社会史」、第 26 回社会政治研究会（オンライン）、2021.12.10

〔研究会報告〕「戦争障害者の社会史」、東京大学経済史研究会（オンライン）、2021.12.13

〔書評リプライ〕「北村陽子著『戦争障害者の社会史――20 世紀ドイツの経験と福祉国家』」、比較教育社会史研究会 2022 年春季例会（オンライン）、2022.3.6

〔シンポジウム報告〕「世界大戦期ドイツにおける戦争障害者と社会への再統合」、MEBINAR シリーズ第 7 回（於名古屋大学／オンライン）、シンポジウム「これからの福祉――「誰一人取り残されない」未来のために」、2022.3.18

〔合評会報告〕「永岑三千輝著『アウシュヴィッツへの道』」、政治経済学経済史学会・東海部会 2022 年度第 1 回研究会（オンライン）、2022.9.24

⑺　受賞

2021 年　サントリー学芸賞思想・歴史部門受賞（『戦争障害者の社会史――20 世紀ドイツの経験と福祉国家』、名古屋大学出版会）

3.　主な社会活動

⑴　非常勤講師

名古屋学芸大学非常勤講師（2002～2003 年度）
名城大学非常勤講師（2003～2009 年度）
愛知淑徳大学非常勤講師（2004～2009 年度）
愛知工業大学非常勤講師（2008～2009 年度）
愛知教育大学非常勤講師（2008～2013 年度）
名古屋大学非常勤講師（2010～2017 年度）
愛知県立大学非常勤講師（2013～2014 年度）
中部大学非常勤講師（2017～2018、2022～2023 年度）

⑵　学会

名古屋歴史科学研究会研究委員長（2019～2021 年度）
日本独文学会東海支部幹事（庶務）（2020 年度～2023 年度）
歴史科学協議会全国委員（2021～2022 年度）
日本学術会議連携委員（2023 年 10 月～現在）